

山行報告書

神戸勤労者山岳会

1. 参加者 田中ま・松本・坂口・池田・松井・川手・一般1名

2. 山城/ルート 八ヶ岳赤岳

3. 交通手段 マイカー

4. 行動記録

<入山日 H27年7月25日。 下山日 7月26日>

第1日

7/24(金)22時30分神戸発⇒4時10分美濃戸山荘駐車場着 車中泊

第2日

7/25(土)7時起床 8時出発…<南沢ルート>…⇒10時50分行者小屋着 幕営 12時出発
⇒阿弥陀岳 13時40分登頂 14時発⇒15時着 行者小屋 テント泊 20時就寝

第3日

7/26(日)3時起床 4時35分出発…<地蔵尾根>…⇒5時35分 地蔵の頭⇒5時50分
赤岳天望荘⇒赤岳 6時20分登頂 6時55分発…<文三郎道>…7時30分 分岐
⇒8時15分 行者小屋着 テント撤収 9時15分出発⇒9時40分 赤岳鉱泉
…<北沢ルート>…11時20分 美濃戸山荘駐車場着 ⇒19時帰神

5. 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a) 予定のルート・日程で行動出来たか？

予定ルートをはずれた場合、あるいは日程が異なった場合はその理由
予定通り。

下山ルートでは、行者小屋から南沢ルートの元来た道をとる予定だったが、時間に余裕もあり、通っていない別ルートを見るため赤岳鉱泉経由で北沢ルートを通った。経験したことのある雪道とはまた違った雰囲気を知ることが出来おもしろかった。

b) 事故に繋がりそうな要因（ヒヤリハット）が発生したか？

発生した場合、具体的に記す

赤岳山頂での休憩中に上部にいた別パーティが石を落として当たりそうになった。落としたことを気付いているのに声掛けがなかった。登頂を喜び、写真撮影や飲食をして気を緩めていたが、休憩時の場所や注意も必要と感じた。

c) パーティーで、山行中の事故に繋がる要因につき、山行後検討したか？

阿弥陀岳山行にはヘルメットをかぶらなかったが、中岳のコルから山頂のルートはかなり急登で大小の岩、石が敷き詰められ足場も悪く、落石の危険があり、ヘルメット着用の必要を感じた。

6. その他、ルートに関する情報・気がついた事など記す

行者小屋から赤岳山頂までの地蔵尾根・文三郎道、はどちらも階段などよく整備されているが、岩場の急登で慎重に集中して進む必要がある。

2日間とも快晴で展望は素晴らしく、赤岳の雄大さを感じながら登り、富士山、御嶽山、

また遠くには北アルプスの穂高連峰などもよく見え、気持ちの良い山行となった。

行者小屋のテント場からは赤岳が正面に見え、夕日に染まる姿をパノラマで眺めることが出来た。星空も大変美しかった。

報告者氏名 松井由香 2015年 7月 30日



休憩ポイントでは地形図と周りの地形を確認し、現在の場所を把握する



阿弥陀岳の急登



阿弥陀岳 登頂



赤岳 地藏尾根の急登



赤岳 登頂！ \ (^ v ^) /



赤岳 テント場 行者小屋からの眺め